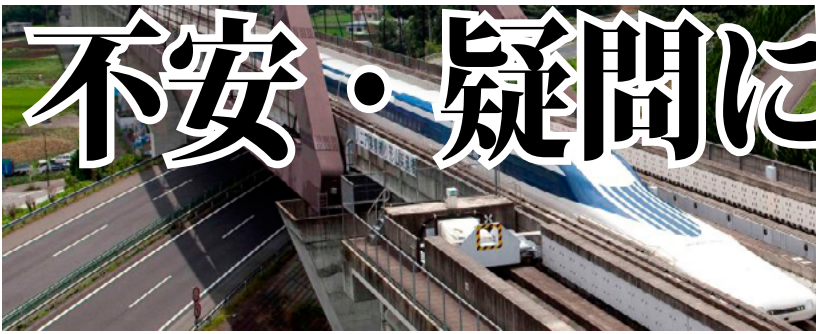


JR 東海は…

不安・疑問に答えて!



JR 東海が着工を急ぐ「リニア新幹線」計画。けれど大丈夫なのか? 住民の不安や心配は、つのるばかりです。

まじめに



リニア問題

“説明会”と
言うけれど

JR 側は「自説」のくりかえし

住民の
質問時間は 1 時間ちょっと

タッタの

JR 東海は「環境影響評価準備書」を公表。関係地域で「説明会」を開催しました。ところが「質問は 1 人 3 問まで」「写真撮影などは禁止」とウルサイこと。「準備書・あらまし」の冊子を配り、その内容を長々となぞるだけの「説明」で、参加した住民の質問時間は、JR からの回答を含めて 1 時間ちょっとしかありません。

住民の質問は、暮らしと地域の環境が激変することへの不安、リニア自体の騒音・磁界・使用電力などへの疑問など「大丈夫なのか?」と

心配する切実な内容がほとんど。けれど JR 東海側の回答は通り一遍で、住民の納得がゆくためには、あまりにも時間が足りません。

リニアへの電力供給についてある人が「JR 東海の葛西会長は原発再稼働と繰り返している。電力が足りているならなぜ原発再稼働か」と聞いたときの答えは「葛西は個人で発言しており私は葛西ではない」…。“木で鼻を括る”とはこのことで、誠実・真剣な対応とはとても言えないのではないのでしょうか。

“説明する”と
言うのなら

計画をとめて
トコトン説明を

説明会で別の住民の方から「この『説明会』だけで終わりではなく、我々の地元まで出向いて、とにかく丁寧に説明してほしい」という訴えが出されました。まったく当然の声です。

「2014 年度着工ありき」で住民を置き去りにするなど許せません。建設計画をいったん止めて、住民が納得できるまでトコトン説明を。このことを、日本共産党も強く求めて力を合わせます。

「JR 東海には『丁寧な説明』を求めます」

日本共産党の要求に
政府・国交省が約束



日本共産党は 10 月 28 日、代表団が上京して政府各省と交渉。国交省にはリニア問題で、「建設を凍結し JR 東海が地元住民の疑問や不安に答える説明会を繰り返し行うよう指導を」と求めました(左の写真)。これには水野功教恵那市議と、党中津川市委員会の木下律子さんも参加しました。
国交省担当官は「JR 東海が実施した説明会は住民の不安に答えるうえで不十分」と指摘。要望にこたえ JR 東海に「丁寧な説明を求め」と言明しました。
地域を守る主人公は住民一人ひとりで、JR の身勝手は許されないと声をあげていきたいと思います。

国民にとって大義のない「リニア計画」は中止を
住民置き去り、などごコメントです

JR 東海がいくら “私企業” でも

こんな
身勝手

見過ごせますか？

環境影響
評価準備書
ここが問題

時速 505km。人類初体験の超高速・リニア新幹線が走ると、人の暮らしや環境はどうなるのか。「調べた」と JR 東海は言いますが、「納得」とは程遠い、問題点がいっぱいです。

「リニア計画」に賛成の人も反対の人も

くらしと地域を守るため共同を

不安
置き去り

“掘ってみないとわからない” とは無責任

長野県境から「恵那山の北方を通過」し中津川市、恵那市、瑞浪市、土岐市、多治見市、御嵩町、可児市と 6 市 1 町を経て愛知県へ。この約 55km 区間が県内ルートです。この間には、著名な活断層（阿寺断層等）や全国有数のウラン鉱床、国定・自然公園、重要湿地群、シデコブシなど希少植物群生地、オオタカなどの生息地が。

で通過する」から「可」。ウラン鉱床も「できるだけ回避する」から OK。動植物や文化財等への影響も「小さい」から「環境は保全されると予測」…。こんな説明で「安心」などと言えるでしょうか。JR 東海の山田社長が言う通り「地質、地形も調査しているが掘り返してみないと何とも言えない」(中日 9.19 付) リニア計画。住民の不安・心配は置き去りではありませんか。

ところが断層も「できるだけ短距離

利用者
置き去り

“安全・利便性” よりも “効率性” が第一

人の命を預ける乗り物。乗客の安全確保は、リニア新幹線にも絶対条件のはず、ですが…。

避難誘導など可能でしょうか。

県内ルートの 88% はトンネルの中。そこで例えば巨大地震に襲われたら、乗客はどう避難できるのか。7 ヲ所つくる非常口のどこかへ乗務員が誘導する、と言いますが遠隔操縦で運転手は初めからゼロ。乗務員が何人いるのかも不明で、最大 1 千人の乗客の迅速な

中津川市に設置される中間駅も「切符売場や待合室は無し」で乗車券は全部「事前予約」制。「建設費だけでなく開業後の運営費も圧縮するため」だと JR は平然と言っています。

乗客の命、安全、使いやすさ、という大事なことも効率性と利益が優先…これでは、かんじんの利用者が置き去りではありませんか。

地元の期待も
置き去り

JR には “地域活性化” の考えがない

岐阜県駅は美乃坂本駅付近…準備書がこう明記して、地元では「いよいよ夢の実現」と期待も高まります。

というのがリニア新幹線で「中間駅の役割は地震など緊急時の停車用。利用者が少ない中間駅は『原則通過』もありうる」(週刊東洋経済 2012.2.25. 号) という指摘もあるほど。「地域に人の流れを増やすかどうか」とは無関係のシロモノです。これでは「地域を元気にしたい」という地元の切実な思いも「肩すかし」、置き去りではありませんか。

その期待は「リニアによって人の流れが増えて賑わいが生み出される。それが地域を活性化させる」ことが中心です。けれど JR 側の考えは別。東京～名古屋～大阪の 3 大都市間を「できる限り直線に近い形」で直結しようと

問題山積
のまま

“建設一本やり” でいいのでしょうか

説明会でも「トンネルを掘って出る巨大量の残土をどうするのか」の疑問が。トンネル出入口などで発生する微気圧波の問題、人材や都市機能がより大規模な都市部へ吸い上げられる「ストロー現象」の問題、巨額の建設費で

JR 東海の経営が行き詰まり「国費投入」などにならないかという疑問など、未解明の問題は山積です。このままで「とにかく建設一本やり」という JR 東海の態度を見過ごせるでしょうか。

あなたのご意見、お聞かせ下さい。

くらしと地域を守る一点で力を合わせます

日本共産党